

## 【 部門目標・評価 】

### 【 目 標 】

共有しよう みんなの気づき ／ 見つけ出そう エラーの要因 ／ すぐに回そう PDCA

#### 1 共有しよう みんなの気づき

1) ヒヤリハット事例（レベル0）の報告件数を増やす

##### 【目標値】

前年度のプラス5%（報告件数全体の20%）

##### 【具体策】

- ② ヒヤリハット事例（レベル0）について医療安全管理委員会で研修する
- ② 医療安全管理委員会においてヒヤリハット事例（レベル0）を紹介する
- ③ ヒヤリハット事例（レベル0）について、なぜ気づけたのかを部署スタッフと分析し、
- ④ 医療安全管理委員会で報告する

2) 事例検討会参加率や研修受講率を上げる

##### 【目標値】

- ① 医療安全管理委員会の出席
  - ・初期研修医：6回以上／年の参加
  - ・委員会メンバー出席率：80%
- ② 研修受講率100%達成
  - ・第1回 e-ラーニングの受講「08-27-1 医療安全の基本を知る①安全を優先させる」
  - ・第2回 e-ラーニングの受講
    - 医師・看護師・薬剤師
    - 「01-02 アレルギー既往歴の確認不足」
    - 「01-07 持参薬の確認不足」
    - 「02-05 電気メスの誤った取り扱いによる熱傷」
    - コメディカル・事務
    - 「02-06 外来で患者取り違えによる誤注射」
    - 「06-03 電話での不十分な意志疎通による配膳ミス」

##### 【具体策】

- 受講の義務づけに関する周知文の掲示（医局の扉や冷蔵庫などにも掲示する。電子カルテトップページに掲載）
- 受講状況を全職員に毎日メールする
- 受講していない職員が視聴できるよう会議室において視聴機会を設ける
- 業務時間で視聴や研修参加できない場合は、超過勤務申請ができる旨を周知する
- 各回ともミニテストを実施し、理解度を確認する

## 2 見つけ出そう エラーの要因 ／ すぐに回そう P D C A

エラーの要因を明らかにし、その要因から対策を導き PDCA サイクルを回す

### 【目標値】

要因から対策を導き P D C A サイクルを回した事例 5 事例

M&Mカンファレンス 1 事例以上

転倒・転落による傷害防止対策への具体的取り組み 取り組み事例 1 例以上

### 【具体策】

- ① 部署の医療安全推進担当者等を中心に、要因分析を支援する
- ② 導き出した対策を部署全体で共有できるよう支援する
- ③ 対策を実践し必ず評価できるよう支援する
- ④ M&Mカンファレンスを企画し実施する
- ⑤ 転倒・転落による傷害防止対策を提案する
- ⑥ 事例分析の研修会を企画・開催する

## 【評 価】

1 ヒヤリハット事例（レベル0）の報告件数を増やす

### 【目標値】

前年度のプラス5%（報告件数全体の20%）→全体7.7%にとどまった。今後もヒヤリハット事例について周知し good レポート提出を推進していく。

2 事例検討会参加率や研修受講率を上げる

### 【目標値】

① 医療安全管理委員会の出席：達成

② 研修受講率100%達成：達成

受講しやすい環境を整備していくことが課題。

3 エラーの要因を明らかにし、その要因から対策を導き PDCA サイクルを回す

### 【目標値】

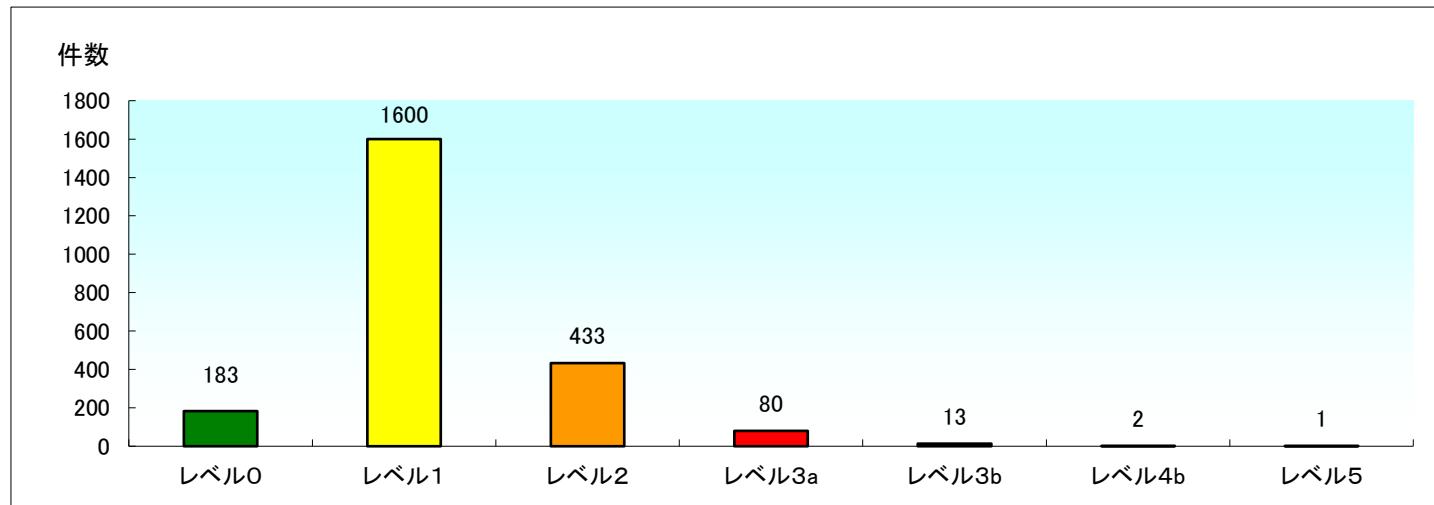
要因から対策を導き PDCA サイクルを回した事例 5 事例→転倒・自己抜去の対策にとどまった。次年度は報告の多かった事例の内容に関して、業務改善を促す仕組み作りをしていく。

【 業務体制・スタッフ 】

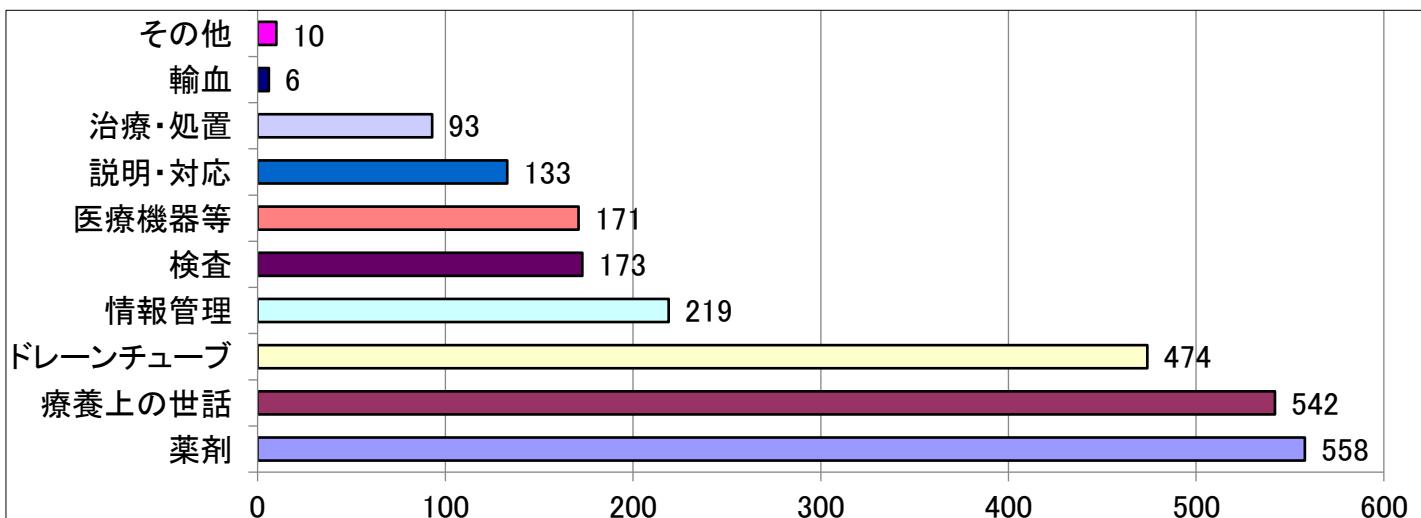
役職名等	氏名	マネジメントに関する資格等	業 務
医療安全室長 副院長	金澤 正樹	医療安全管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の医療安全管理体制の構築・推進</li> <li>・医師を対象とした医療安全管理の啓蒙指導</li> <li>・M&amp;Mカンファレンスの企画・運営</li> </ul>
副医療安全室長 (専従)	竹田 貴子	医療安全管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全対策の体制確保のための各部門との調整</li> <li>・医療安全対策に係る体制を確保するための職員研修の企画・実施・評価</li> <li>・重大な事故発生時の院内の組織的な対応</li> <li>・訴訟等に関する弁護士・保険会社との調整</li> </ul>
医療対話推進者 (専従)	伊藤 由華利	医療対話推進者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族からの苦情および相談・暴言暴力対応に関する研修の企画・運営</li> </ul>
医薬品安全 管理責任者 (兼任)	古川 博則	医療安全管理者 医薬品安全管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品安全使用のための研修の企画・運営</li> <li>・医薬品安全使用のために必要となる情報の収集及び院内周知</li> </ul>
医療機器安全 管理責任者 (兼任)	田野 史晃	臨床工学技士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器安全使用のための研修の企画運営</li> <li>・医療機器の保守点検の適切な実施についての監査及び指導・情報収集及び周知</li> </ul>
医療安全担当 事務	田口 博一		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全に関する会議・研修会の庶務</li> </ul>

## 【 業務実績 】

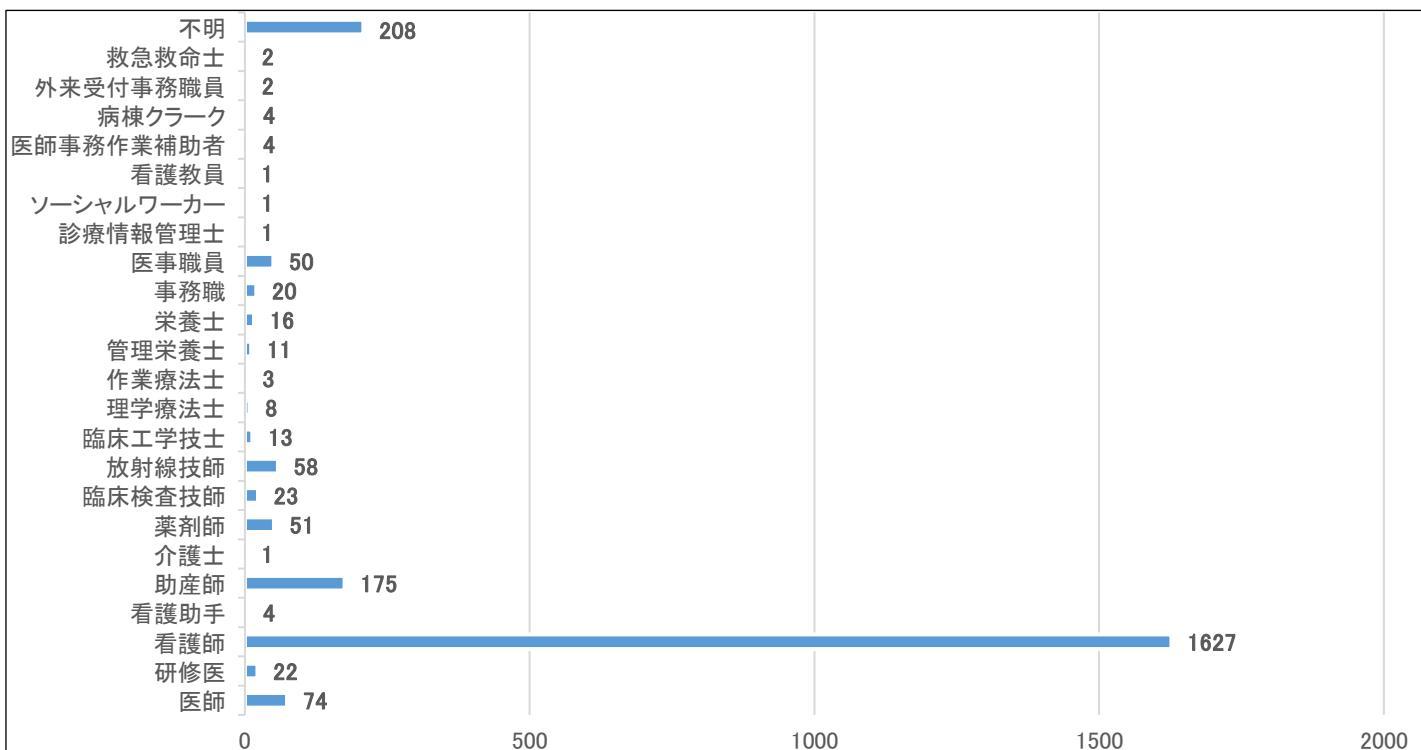
### 1. 報告総数：2379件



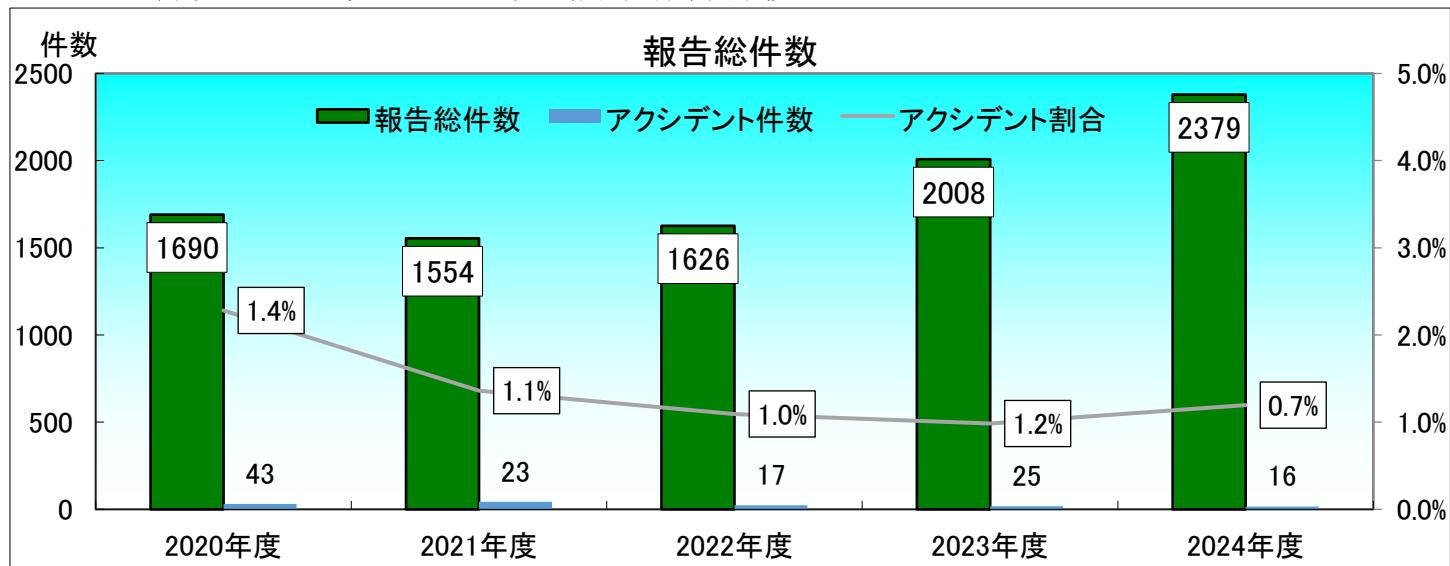
### 2. 報告内容別件数



### 3. 報告者別件数



#### 4. 過去5年間における事故レベル3b以上報告割合年度推移



#### 【令和6年度 医療安全研修】

分類	テーマ	内容	開催月	対象者	受講者数
必須研修	第1回 医療安全研修会	eラーニングの受講 「医療安全の基本を知る」	5月 ～ 7月	全体会員	582人
			0%		受講率100%
医療安全教育	第2回 医療安全研修会	eラーニングの受講 1. 医師・看護師・薬剤師対象 2. コメディカル・事務対象	11月 ～ 12月	全体会員	553人
			0%		受講率100%
医療機器	新採用者オリエンテーション	医療安全の基本的な考え方	4月	新採用者	87人
	中途採用者オリエンテーション	医療安全の基本的な考え方	6月	中途採用者	2人
	KYT/インシデントレポートについて	医療安全に関する知識を深め、安全な看護について理解する	6月	新人看護師 臨床工学技士	36人
	事故要因分析の手法とその実際	事故の要因を分析し、対策を立案することで再発防止に繋げる	7月	ラダーII以上 の希望者	12人
医薬品	輸液ポンプ・シリンジポンプ研修会	使用方法・取扱の説明	4月	新人看護師	35人
医薬品	第1回 医薬品の安全使用講習会	1. 便通異常症診療ガイドラインについて 2. 外来患者の術前中止薬	6月	全体会員	50人
	第2回 医薬品の安全使用講習会	インフルエンザウイルスとコロナウイルスにおける治療薬の役割	2月	全体会員	27人
その他	心肺蘇生研修	BLS	随時	全職員	

	心肺蘇生研修	ICLS		希望者	
--	--------	------	--	-----	--

【令和6年度 資格取得・更新研修受講】

受講研修	職種	取得人数	更新
医療安全管理者	医師	1名	
	看護師	1名	
	臨床検査技士		1名

【1年間の総括】

- インシデント報告件数は2023年度2008件から2379件と371件増加した。レベル別の割合は昨年と同様で、レベル1が全体の67%。報告内容別の割合も昨年と同様で、薬剤療養上の世話、ドレーン・チューブが全体の66%となっている。
- 医師からの報告割合は2023年度5.4%から4%に減少した。研修医に積極的にレポート提出するよう指導がされ、2023年度と同数の22件となっている。今後の医療安全文化の醸成を考える上で、さらなる医師・研修医の報告件数の増加に期待したい。
- インシデントレベル3b以上の事例は2023年度25件から16件に減少。事例の内訳は術後の出血など合併症・偶発症が全体の43%。いずれの事例も術前のICで、術後合併症について説明され患者・家族の理解を得られていた。療養上の世話の割合では2023年度全体の17%から22%に増加した。2024年度は転倒転落後の骨折の事例が5件連続して発生したことから、車椅子用トイレに衝撃吸収マットを設置し対応した。

前年度に引き続き、日々提出されるインシデントレポートの中で職種や職位により、医療倫理に対する心がけの違いがあることから、今後も病院全職員が一丸となって取り組む課題となる。

- 医療安全管理委員会の活性化（事例検討から各自の医療安全に対する意識を高めていく）
- インシデントレポートの積極的提出
- 医師の提出率UP 目標10%（通常5%程度が推奨される）
- オカレンス項目の設定と手術バリアンス報告の徹底
- 死亡事例の全症例報告
- インフォームド・コンセントのガイドラインの定期的な改訂
- M&Mカンファレンスの開催
- 産科保障制度や医療事故調査制度の活用
- 研修への参加促進（受講率目標100%）